

小林多喜二から梅原龍三郎まで

昭和モダン
絵画と文学
1926-1936
Art and Literature in Japan 1926-1936

2013年11月2日(土) ⇨ 12月29日(日)

神戸ビエンナーレ2013会期中(10/1-12/1)は無休



1 古賀春江《窓外の化粧》1930年
神奈川県立近代美術館



2 徳永直『太陽のない街』装幀・柳瀬正夢
1929年 世田谷文学館

開催趣旨

プロレタリア、モダニズム、文芸復興

激動の時代の絵画と文学を紹介

昭和期の最初の10年間は、文化的に多産で豊かな時期でした。活力あるプロレタリア芸術運動が盛り上がり、スマートで洗練されたモダニズムの運動がそれに対立するかのよう活発化します。さらに文芸復興とも呼ばれる流れのなかで「日本的なもの」が浮上し、今、巨匠として知られる作家たちが近代日本を代表する芸術を確立しました。

この展覧会では、日本が次第に戦争へと向かうこの時期の絵画と文学に焦点を絞り、なかでも特徴的な表現を示した洋画と小説に注目します。どちらにも共通する3つの大きな潮流を代表的な作品によって紹介し、時代の精神や雰囲気を立て体的にご覧いただけます。戦前期の文化の活力と豊かさ、その魅力をぜひお楽しみ下さい。

会期等

2013(平成25)年11月2日(土) - 12月29日(日)

休館日: 12月2日(月)、9日(月)、16日(月)、24日(火)

※神戸ビエンナーレ2013会期中(10/1 ~ 12/1)は無休

開館時間: 10:00 - 18:00

※金・土曜日は夜間開館(20:00まで)

※入場は閉館の30分前まで

会場

兵庫県立美術館 企画展示室

主催: 兵庫県立美術館・読売新聞社・美術館連絡協議会

後援: 公益財団法人伊藤文化財団・兵庫県・兵庫県教育委員会

神戸市・神戸市教育委員会

助成: 芸術文化振興基金

協賛: ライオン・清水建設・大日本印刷・損保ジャパン

観覧料

一般1200(1000)円、大学生900(700)円、

高校生・65歳以上600(500)円、中学生以下無料

※()内は、前売料金及び20名以上の団体割引料金

(高校生・65歳以上は前売なし)

※障害のある方とその介護の方1名は各当日料金の半額

(65歳以上除く)

※割引を受けられる方は、証明できるものをご持参ください

※コレクション展の観覧には別途観覧料金が必要

(本展とあわせて観覧される場合は割引あり)

※神戸ビエンナーレ2013の会期中、ビエンナーレ入場券(半券可)

ご提示により、本特別展を団体割引料金でご覧いただけます。

展覧会構成

1 プロレタリアの芸術

大正末からマルクス主義は知識人や芸術家に強い影響を与え、プロレタリア芸術運動は1930年前後に大きな盛り上がりを見せました。小林多喜二や徳永直らが力強い作品を発表し、プロレタリア美術大展覧会が毎年開催されました。

【絵画】 岡本唐貴、矢部友衛、柳瀬正夢、大月源二、
 寺島貞志、前田寛治ら

【文学】 小林多喜二、徳永直、葉山嘉樹、黒島伝治、
 中野重治、平林たい子ら



3 岡本唐貴《争議団の工場襲撃（復元画）》
 1974年（原作1929年） 岡山県立美術館



4 『戦旗』創刊号1928年

2 新感覚・モダニズム

ヨーロッパの前衛芸術が日本にも知られ、文学では横光利一や川端康成ら新感覚派が登場します。モダンガールやビルディングなど現代文明や風俗を描く作品が現れ、絵画においても東郷青児や古賀春江らモダニズム系画家が活躍します。

【絵画】 東郷青児、古賀春江、三岸好太郎、福沢一郎、
 川口軌外、中原寛ら

【文学】 横光利一、川端康成、堀辰雄、龍胆寺雄、
 西脇順三郎、北園克衛ら



5 三岸好太郎《海と射光》
 1934年 名古屋市美術館



6 横光利一『機械』装幀：佐野繁次郎
 1931年 世田谷文学館

3 文芸復興と日本的なもの

1930年代「文芸復興」が文壇において唱えられ、谷崎潤一郎『春琴抄』、島崎藤村『夜明け前』など名作が完成します。同時に日本的なものへの関心から、日本的油絵が試みられるなか、安井曾太郎と梅原龍三郎は自らの作風を確立します。

【絵画】 梅原龍三郎、安井曾太郎、藤島武二、須田国太郎ら

【文学】 志賀直哉、島崎藤村、永井荷風、徳田秋声ら



7 安井曾太郎《薔薇》
1932年 石橋財団ブリヂストン美術館



8 永井荷風『溍東綺譚』
装幀・永井荷風 挿画・木村荘八 1937年

関連イベント

記念講演会「美術と文学の交流」

講師：和田博文（東洋大学教授）

11月10日（日）14:00～（約90分）

ミュージアムホールにて 聴講無料（定員250名）

学芸員による解説会

11月16日（土）、11月30日（土）、12月7日（土）、12月21日（土）

16:00～（約45分）

レクチャールームにて 聴講無料（定員100名）

ミュージアム・ボランティアによる解説会

会期中の毎週日曜日 11:00～（約15分）

レクチャールームにて 聴講無料（定員100名）

こどものイベント「ブックデザインをしよう」

12月14日（土） 10:30～15:30

アトリエ2にて 有料 要申し込み

お問い合わせ：こどものイベント係 078-262-0908

特別上映 KEN-Vi名画サロン

映画で観る 谷崎文学の世界

11月9日（土）

①10:30～ 「細雪」

監督：島耕二 出演：京マチ子、山本富士子、轟夕起子、ほか

②13:00～ 「鍵」

監督：市川崑 出演：中村鴈治郎（二代目）、京マチ子、仲代達矢、ほか

③15:30～ 「刺青」

監督：増村保造 出演：若尾文子、長谷川昭男、山本学、ほか

ミュージアムホールにて 1人1作品ごとに800円（定員各回250名）

主催：兵庫県立美術館アートフュージョン実行委員会

NPO神戸100年映画祭 兵庫県映画センター

お問い合わせ：兵庫県映画センター 078-331-6100

同時開催の展覧会

神戸ビエンナーレ2013 「横尾忠則 感応する風景」

Yokoo Tadanori: Landscape Paintings

10月1日（火）-12月1日（日）

会場：兵庫県立美術館 ギャラリー棟3階

コレクション展Ⅱ

特集 新収蔵品紹介 「信濃橋画廊コレクション」を中心に

小企画 美術の中のかたち—手でみる造形

「近いかたち、遠いかたち—岡普司・重松あゆみ・中西學—」

7月6日（土）-11月10日（日）

会場：兵庫県立美術館 常設展示室（1階・2階）

コレクション展Ⅲ

特集 コレクション名品選 「美術のはじまる場所」（仮題）

小企画 奥田善巳展

11月23日（土・祝）-2014年3月9日（日）

会場：兵庫県立美術館 常設展示室（1階・2階）

チャンネル4

薄白色の余韻 小林且典

11月2日（土）-12月1日（日）

会場：ギャラリー棟 1階 アトリエ1

「横尾忠則 肖像図鑑」HUMAN ICONS

9月28日（土）-2014年1月5日（日）

会場：横尾忠則現代美術館

※特別展又はコレクション展の有料チケット半券のご提示で、団体割引料金でご覧いただけます。（詳細はHPなどでご確認ください）

広報用画像について

このプレスリリースに掲載されている画像データをプレス掲載用にご用意しております。別紙の申込書をご使用ください。

お問い合わせ先

兵庫県立美術館

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1

代表 TEL: 078-262-0901 FAX: 078-262-0903

企画内容に関すること

担当学芸員: 速水 豊

TEL: 078-262-0909 FAX: 078-262-0913

e-mail:

取材・写真提供に関すること

営業・広報グループ

TEL: 078-262-0905 FAX: 078-262-0903

交通案内

阪神岩屋駅（兵庫県立美術館前）から南に徒歩約8分

JR神戸線灘駅から南に徒歩約10分

阪急神戸線王子公園駅から南西に徒歩約20分

神戸市バス・阪神バス「県立美術館前」下車すぐ

地下駐車場: 乗用車80台収容・有料

*ご来館はなるべく電車・バスをご利用ください

*団体バスでお越しの場合は、バス待機所の予約をお願いします



広報画像申込書

営業・広報グループ 宛 FAX (078) 262-0903

ご希望の画像の番号に○をつけてください。後日データ (.jpg) をお送りいたします。

番号	作家名・作品名・制作年・所蔵館など
1 (表紙)	古賀春江《窓外の化粧》 1930年 神奈川県立近代美術館
2 (表紙)	徳永直『太陽のない街』 装幀・柳瀬正夢 1929年 世田谷文学館
3	岡本唐貴《争議団の工場襲撃(復元画)》 1974年(原作1929年) 岡山県立美術館
4	『戦旗』創刊号 1928年
5	三岸好太郎《海と射光》 1934年 名古屋市美術館
6	横光利一『機械』 装幀:佐野繁次郎 1931年 世田谷文学館
7	安井曾太郎《薔薇》 1932年 石橋財団ブリヂストン美術館
8	永井荷風『濠東綺譚』 装幀・永井荷風 挿画・木村荘八 1937年

※上記画像を媒体掲載される際には、記載の**作家名・作品名・制作年・所蔵館**などを必ず入れてください。

※画像データ使用は、本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。それ以外での使用はできません。ご了承ください。

貴社名			
媒体名	新聞・雑誌・ミニコミ TV・ラジオ・インターネット		
ご担当者名			
ご住所	〒		
電話番号		FAX	
メールアドレス	@		
URL			
掲載・放送予定日			
画像到着希望日			
読者・視聴者プレゼント用招待券(最大10組20名まで 本展を媒体でご紹介いただける場合に限り)	組	名分希望	
メールマガジンをお持ちですか?	はい ・ いいえ		
メールリングリストをお持ちの場合、当館の展覧会・イベント情報等を送信していただく事は可能ですか	可 ・ 不可		

※ 本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体(VTR/DVD)などを、上記営業・広報宛にお送りくださいますようお願いいたします。

※ 本展覧会会場の取材、撮影をご希望の場合は、上記までご連絡ください。事前にご連絡のない取材・撮影はお断りいたします。